

保健体育科学習指導案

日 時 平成28年6月2日(木) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年C組(男子19名女子20名)
会 場 体育館
授業者 加賀智子

1 単元名 球技 ゴール型 バasketボール

2 単元について

(1) 教材観

球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

「ゴール型」Basketボールは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、一定時間内にいかに相手よりも多くシュートを決め、いかに自ゴールを守るかといったスピード感あふれるスポーツである。

本校では2年生で「ゴール型」の球技を学習するため、特にシュートを中心とした個のボール操作やボールを持たないときの動きといった「ゴール型」の基本的技能の習得をねらいたい。そしてその技能を状況に応じてよりよく発揮し、仲間と連携してゲームが展開できるようチーム力を高めさせていく。Basketボールは、これらのねらいに向かってチーム内で協力して練習したり、話し合っ課題解決をしていくことが展開しやすく、個やチームの高まりが期待できる教材である。このことが、保健体育科でねらう「学びの本質」を深めることにつながり、おいては保健体育科の「目標」や生涯スポーツにつながる資質を育てることができると教材であると考える。

(2) 生徒観

対象の生徒は39人中26人が運動部に所属しているが、3分の1の生徒が学芸部に所属し日常の運動経験が少ない傾向にある。Basketボール部員は女子2名のみである。小学校時にはボールやコート、ルールを工夫したBasketボールを行っている。

事前の実態調査において、「Basketボールの授業に興味があるか」尋ねたところ、対象の6割の生徒が「興味がある、どちらかといえばある」と回答している。逆に4割の生徒がこれまでの経験からBasketボールに否定的なイメージを持っている。理由は「うまくできないから」、「おもしろくないから」と堅くて大きいボールをうまく扱えてこなかったこと、得意な人だけがゲームをコントロールしていた状況が把握できた。

「今回の授業で期待すること」を尋ねたところ右のような内容が挙げられた。

Basketボールに否定的なイメージや不安がある生徒が多いため、互いの状況を理解させながらみんなで楽しく上達していけるような授業を展開していく。

- ・楽しくゲームを行うこと
- ・公式ルールでゲームすること
- ・ルールを学ぶこと
- ・基礎を身に付けること
- ・チームワークよく行うこと

(3) 学びの本質に迫る指導について

保健体育科における「学びの本質」とは、「課題解決に向けて、知識を実践的に活用し、運動の行い方を工夫し、スポーツとのかかわり方を楽しむことができる力」を身につけること、ととらえる。めざす生徒の姿として、「課題に向かう中で『問い』を持ち続け、これまでに得た知識を活用し、運動の行い方を工夫し、運動とのかかわり方を見つけ、運動の楽しみに気付くことができる生徒」と定義する。生徒が主体的に学習に臨み、様々な活動を通して思考・判断・表現をし、日常生活の中で活用できる力として育成していく必要がある。本研究では、特に5つの視点に重点を置くこととする。

① 課題を把握する力、課題設定力

- ・目指す動きと今自分がした運動の比較による複数の「違い」を把握することができる力
- ・目標とする動きと自己の動きの違いをとらえ、改善すべきポイントを見つける力
- ・目指す動きに近づけるためにもっとも重要だと考えられるものを見つけ出し、それを課題として設定する力

② 練習方法を選択する力

運動実践の場面で、自己の課題に応じて適切な練習を選ぶ力

③ コミュニケーション力

- ・お互いに出来映えを相互評価し、よりよいものを目指す力
- ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかかわり方を見つける力
- ・思考、判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える力

④ 自分の学びを振り返る力（メタ認知）

学習を振り返り、どのような力が身についたかということを実感的に振り返り、次の場面に役立てることができる力

⑤ 運動の特性をとらえる力

各種目の運動のそのものの本質的な価値をとらえることができる力

学びの本質に迫る手立ては以下の通りである。

(1) 「問い」が生まれる学習課題の工夫

- ①授業の導入では、生徒自身が自分のこととしてとらえるように、前時の振り返りを活用し、自分や学級の仲間の実態に基づいた資料提示をし、既習内容を想起させる。【前時の振り返り提示】
- ②iPadを活用し、生徒が映像で目指す動きと自分の動きとの違いを把握させる。【iPad活用】

(2) 生徒の学びを深める過程の追求

- ①学びを深めるかかわり合いの工夫。【学習形態の工夫】
- ②生徒の「問い」が継続する教師の手立て。
 (導入) → 「既習内容」や「概念」を問う。
 (展開①) → 「根拠」, 「方法」, 「関連」を問う。
 (展開②) → 「よりよい考えや表現を求めて」問う
 (終末) → 「よさ」, 「根本概念」を問う。

3 単元の指導目標及び評価規準

(1) 指導目標

- ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開することができるようにする。(技能)
- ・積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。(態度)
- ・特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

(2) 評価規準

- ① 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にし、分担した役割を果たそうとすることや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。
【運動に対する興味・関心・態度】
- ② 学習課題に応じた運動への取り組み方を工夫している。
【運動の思考・判断】
- ③ 運動の特性に応じてゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。
【運動の技能】
- ④ 運動の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。
【運動の知識・理解】

4 単元の指導計画・評価計画

(1) 指導計画（12時間）

時数	学習内容	活動内容
1	<p>【球技「ゴール型」バスケットボールの学習を見通そう】</p> <p>○積極的に取り組もうとすること。(態度)</p> <p>○授業のねらいや約束、学習の流れを理解すること</p> <p>特性や成り立ち、関連して高まる体力を理解すること。(知識)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションシートに特性、歴史、関連して高まる体力を書き込む。 ・授業ねらいや約束、学習計画を理解する。 ・アップドリル、ボール操作の行い方を理解する <p>■ 単元の目標</p> <p>「ノーマークをつくってシュートを打とう」</p>

2	【ボール操作を身に付けよう】 ○ボールの基本操作ができること。(技能) ○技の名称や行い方を理解すること。(知識)	・ボール操作(パス,ドリブル,シュート)や基本的な動き(ストップ,ピボット)の学習に取り組む。
3	【シューターになろう】 ○シュートフォームを身に付けること。(技能)	・シュートフォームのめざすべき姿と自分の姿を動画で確認する。 ・自分の課題を把握し学習シートに記入する。
4	【2on1のゲームをしよう】 ハーフコート ○ゲームの行い方を理解すること。(知識)	・2人対1人のゲームをハーフコートで行う。 ・わかったこと,できなかったことを学習シートに記入する。
5	【2on1の攻め方を考えよう】 ハーフコート ○ディフェンスをかわしてパスを受ける方法を見付けること。(思考・判断)	・2人対1人のゲームをハーフコートで行う。 ・ディフェンスをかわしてパスを受ける方法として気づいたことを学習シートに記入する。
6	【ノーマークの味方にパスをしよう】 ハーフコート ○ノーマークの味方にパスをすること。(技能) ○ノーマークになるポイントに動くこと。(技能)	・3人対2人のパスゲームを行う。
7	【3on2のゲームをしよう】 ハーフコート ○ゲームの行い方を理解すること。(知識)	・3人対2人のゲームをハーフコートで行う。 ・わかったこと,できなかったことを学習シートに記入する。
8 本時	【3on2の攻め方を考えよう】 ハーフコート ○ディフェンスをかわしてパスを受ける方法を見付けること。(思考・判断)	・3人対2人のゲームをハーフコートで行う。 ・ディフェンスをかわしてパスを受ける方法として気づいたことを学習シートに記入する。
9	【3on2のゲームをしよう】 ハーフコート ○ゴール前での攻防ができること。(技能)	・前時のポイントを生かして,3人対2人のゲームをハーフコートで行う。
10	【4on3のゲームをしよう リーグ戦①】 ハーフコート ○作戦などの話し合いに参加すること。(態度) ○ゲームの行い方を理解すること。(知識)	・これまでの学習を生かし,4人対3人のゲームをハーフコートで行う。 ・わかったこと,できなかったことをチームで話し合い,学習シートに記入する。
11	【4on3のゲームをしよう リーグ戦②】 ハーフコート ○課題に応じて,有効な練習方法を選ぶこと。(思考・判断)	・チームの課題に応じた練習をチームごとに行う ・練習を生かし,4人対3人のゲームをハーフコートで行う。 ・成果と課題をチームで話し合い,学習シートに記入する。
12	【4on3のゲームをしよう リーグ戦③】 ハーフコート ○課題に応じて,有効な練習方法を選ぶこと。(思考・判断)	・チームの課題に応じた練習をチームごとに行う ・練習を生かし,4人対3人のゲームをハーフコートで行う。 ・成果と課題をチームで話し合い,学習シートに記入する。

(2) 評価計画

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
1				授業のねらいや約束,学習の流れについて,あげている。 特性や成り立ち,技の名称や行い方,関連して高まる体力について,あげている。
2				技の名称や行い方についてあげている。
3	積極的に取り組もうとしている。			

4				ゲームの行い方の具体例を挙げている。
5		ディフェンスをかわしてパスを受ける方法を見付けている。		
6			ボールの基本操作ができる。 シュートフォームを身に付けている。	
7				ゲームの行い方の具体例を挙げている。
⑧ 本時		ディフェンスをかわしてパスを受ける方法を見付けている。		
9			ディフェンスをかわしてパスを受けることができる。	
10		課題に応じて、有効な練習方法を選んでいる。		
11	作戦などの話し合いに参加しようとしている。	課題に応じて、有効な練習方法を選んでいる。		
12		課題に応じて、有効な練習方法を選んでいる。	ゴール前での攻防ができる。	

5 本時について（8/12時間）

(1) 主 題 バスケットボール

(2) 指導目標

ディフェンスをかわしてパスを受ける方法を見付けることができるようにする。

(3) 評価規準

ノーマークでパス受けるための方法を見付けている。【運動についての思考・判断】

(4) 指導の構想

中学校で初めて「ゴール型」の球技に取り組んで8時間目にあたる。バスケットボールに対する苦手感がある生徒も多いことから、ボールに慣れることと、シュートが入る楽しさを味わわせることを重点に授業を展開してきた。そのために、アウトナンバーでオフェンスが有利な状態にし、ディフェンスをかわしやすくなるようにゲームを行ってきた。また、コートでの人数も最小限からゲームをスタートし、個がボールに関わりやすくなるよう授業を進めてきた。

本時は、プレーヤーの人数を増やして3人対2人でゲームを行う。プレーヤーが増えてもスペースをつくったり、スペースでディフェンスをかわしてパスを受けるための方法を理解させていきたい。

① 導入について

ダイナミックストレッチで、バスケットボールを行う時に必要な関節や筋肉の可動域を広げていく。また、基本動作を行いながら、バスケットボールにおける体の使い方を身に付けさせていく。パスランからのシュート練習で、パスや動きながらのシュート練習を行い技術の習得をねらっていく。

そして、前時の学習から課題を把握し、本時の学習課題を確認する。その学習課題から「どのようにすればよいのだろう」「ほかの方法は何だろう」という問いを生徒に持たせたい。

② 本時の展開場面について

空いている場所を認識できるようにするドリルとしてパスゲームを行う。そこから見つけた「ディフェンスをかわす方法」を交流し合い、その方法を3人対2人のゲームで応用させていく。

③ まとめについて

「ディフェンスをかわす方法」について、チーム、全体で交流する。次時はその方法を生かしてゲームを行っていくことを確認する。

(5) 本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間 (分)	■「学びの本質」とのかかわり
導入	<p>1 集合、あいさつ、健康観察を行う。</p> <p>2 準備運動を行う。 アップドリル (ランニング・ハンドキック (スロー・クイック) カリオカ (逆向き) ・つま先タッチ・ランジ サイドステップ・2人組空中アタック (往復))</p> <p>3 ボール操作ドリルを行う。 シュートドリル (セットシュート パスランシュート① パスランシュート② 各2分ずつ)</p> <p>4 学習課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ディフェンスをかわしてパスを受ける動きを考えよう</p> </div>	10	■「学びの本質」とのかかわり
展開	<p>5 パスゲームを行う。前時までのパスゲームからパスを受けるために有効な動きとしてチームでとらえたことを意識しながら取り組む。パスゲームから気づいた動きを確認する。</p> <p>6 3 on 2 (ハーフコート) を行う。パスゲームを通してとらえた動きをチームで確認し、シュートまでいくゲームを行う。</p>	32 (42)	<p>■「問い」が生まれる学習課題の工夫 (課題を把握する力, 課題設定力)</p> <p>■学びを深める「かかわり合い」の工夫 (コミュニケーション力)</p> <p>■生徒の「問い」が継続する教師の手立て →「方法」「関連」「よりよさ」を問う (コミュニケーション力)</p>
終結	<p>7 学習の振り返り ・「ディフェンスをかわしてパスを受ける動き」についてチーム、全体で交流する ・個人で学習シートに記入する ・今回学習した動きを次時のゲームでいかしていくことを確認し次時の見通しをもつ</p> <p>8 整理運動</p> <p>9 あいさつ</p>	8 (50)	■生徒の「問い」が継続する教師の手立て →「よさ」「根本概念」を問う (自分の学びを振り返る力)